

日本建築学会北海道支部 2008年度 通常総会

日時 2008年5月16日(金)
会場 北海道建設会館

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2008 年度総会議案

2007 年度事業報告

2007 年度事業計画・活動方針に基づき精力的な活動が実行されてきた。一昨年度までに検討されてきた中長期戦略検討 WG の報告書に謳われた 3 テーマを次に示す。

支部運営の強化（会員増強・財政強化・財政改善）

支部体制の見直し（各種委員会・地方組織）

支部活動の活性化（支部発表会・各賞・建築教育）

今年度は、地域連携・技術振興・会員増強の新たな足がかりとして検討していた北海道支部技術賞が創設され、次年度からの発展が大いに期待される。また、支部会員サービスの充実には、個々の支部会員を含め、支部財政の支えとなっている法人・賛助会員の問題意識を知ることが、運営や体制の見直しばかりでなく、支部活動の活性化にとっても必須の情報となる。今年度はメールやホームページ広報などを通じ、会員に対し広くアンケート調査を行った。この結果もまた今後の支部戦略の礎となるに違いない。特筆すべきは、環境工学専門委員会において、EGG と称する建築環境系卒業論文の発表会が企画され、2 年目に入ったことである。これもまた、会員（準会員）の増強と建築教育の一環として、支部の活性化を促すことが大いに期待される。

1. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2007 年 5 月 18 日

会場 北海道第二水産ビル

出席正会員 45 名（委任状 15 通）

当支部地域在住正会員 885 名の 30 分の 1、30 名以上の出席により成立

2006 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2007 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

常議員会

6 回開催

常任幹事会

7 回開催

選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2.1 学術委員会（主査：武田 寛君 委員数 16 名 委員会開催数 4 回）

活動報告

- ・本部学術推進委員会の報告
- ・各専門委員会からの報告
- ・支部研究発表会を 6 月 28 日に北海道工業大学で開催することに決定。支部研究発表会特別企画は日本建築学会会長に決定した。
- ・次年度の建築文化週間事業企画案「みんなで始める地震防災対策」、「鹿ノ谷クラブ」の 2 件を採択した。
- ・来年度の特定課題研究は応募がなかった。
- ・建築学会本部大賞候補に柴田拓二先生を推薦。推薦文は城北大名誉教授に依頼した。
- ・支部研究発表会開催時期を再検討した。アンケート結果、現行のままで良いが大半であった。

- ・技術賞規定を作成した。第1回の技術賞は土屋ホームに決定した。

2.2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会（主査：濱 幸雄君 委員数 23 名 委員会開催数 6 回）

本年度は、専門委員会を2ヶ月に1回程度の割合で、計6回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会など各種委員会報告や諮問事項についての検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について事前に担当者を決め報告をしていたが、最近の研究動向について意見の交換を行った。

2007年9月12日（水）に「大和生命札幌大通り西5丁目計画新築工事」の現場見学会と「道新釧路新工場」の技術紹介（免震）を行った。また、2008年3月28日（金）には「JASS8 防水工事」改定説明会を全国防水工事業協会北海道支部と共催で開催した。

構造専門委員会（主査：桜井修次君 委員数 19 名 + 加ザバ - 1 名 委員会開催数 2 回）

定期的に委員会を開催して構造関連の情報交換を行い、下記の活動を行った。特に、委員会活動をより活発化するため日本建築構造技術者協会（JSCA）北海道支部と協力して講演会を行った。

1) 委員会開催

委員会を2回行った（7月3日、12月10日）。また、必要に応じて通信会議を数回行った。

2) 見学会

2007年10月31日「創生川通アンダーパス連続化工事現場見学会」を行った。

参加者 19 名。

3) 講演会

2007年7月26日「設計用地震力低減効果（構造特性係数 D_s ）について」

講師・麻里哲広君（北大）

本委員会および JSCA 北海道支部共催により講演会を行った。参加者 40 名。

4) 勉強会

2007年12月10日

北大低温科学研究所・藤吉康志教授を講師として「風と建築」に関する勉強会を行った。

5) 支部研特別企画「風災害の事例と建築物の安全性の向上」の実施

2007年7月21日

都市防災専門委員会と共同で標記シンポジウムを行った。参加者 100 名。

環境工学専門委員会（主査：石田 秀樹君 委員数 31 名 委員会開催数 5 回）

本年度は、昨年に引き続き下記1)～3)の活動を継続しながら、新たに下記4)への取り組みについて検討と準備を進めた。

1) 北海道建築技術協会主催の「断熱建物の夏対応研究委員会」及び「中高層マンションの外断熱改修委員会」への研究協力を継続。

2) 2006 年度特色ある支部活動「積雪寒冷気候を生かした低コスト貯蔵技術による農業生産環境改善への貢献」を継続。

3) 道内各大学の学生による環境工学系・卒業論文発表会を継続して支援。

4) 建築計画委員会との協同による「超高齢化社会の積雪寒冷地における住環境整備の課題」について、看護・介護・福祉分野の専門家を交えた勉強会やミニ・シンポジウム開催のための準備として、札幌市立大に新設された看護部門の専門家と、本テーマに関する意見交換を行った（2008年1月）。

また、上記活動に平行して“本委員会として社会に何を発信するか”について議論が進められ、『高齢者が社会に必要な存在となるためには』、『子供たちが環境をどう学ぶか』をキーワードとして、委員会の存在意義そのものについての議論を深める必要が示された。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 15 名 委員会開催数 4 回）

2007.9.28 於札幌市立大学サテライトキャンパス、研究報告集会「コピキタスは建築をどう変えるか」(コピキタス建築都市特別研究委員会(本部特定課題研究委員会)刊行企画小委員会と共催) 続いて2007.9.28-29 於天神山国際ハウス「未来のオフィス像 札幌会議」(コピキタス建築都市特別研究委員会・業務施設小委員会主催)への協力(参加数 40)。2007.10.20 於情緒障害児短期治療施設パウムハウス(体育館)/北海道伊達市松ヶ枝町「児童福祉・建築 学際シンポジウム+ 藤本壮介設計 パウムハウス見学会『空間から考えるこれからの児童養護系施設』」(日本建築学会北海道支部・東北支部合同企画)(参加数 132)。2007.12.10 於帯広工業高等学校「巡回講演会：フリーウェアを活用した空間デザインについて」(参加数、生徒 79、教諭 8)。なお、2007 年度の研究計画「超高齢化社会の積雪寒冷地における居住環境整備の課題」に関し、2008.1 .2 於札幌市立大学看護学部「意見交換会」を行った。

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 14 名 委員会開催数 3 回）

都市計画委員会では北海道の諸都市で課題となっている、コンパクトシティと地域再生に関する公開研究会を続けて社会への還元を行っており、会員以外も広く参加している。平成 19 年度はおもに 3 つの公開研究会を行った。「高齢化社会における移住と地域再生」(4 月 16 日): イギリスニューカッスル大学の研究者を講師として、移住と地域再生をテーマとした公開研究会を行い、約 50 名が参加した。「コンパクトシティ研究会」(12 月 11 日): 地方都市のコンパクトシティのあり方を、おもに土地利用に焦点をあてた公開研究会で、約 20 名が参加した。「夕張都市マネジメント研究会」(2 月 28 日): 人口減少が著しい夕張市を対象にコンパクトシティのあり方を検討する研究会を夕張市役所で行い、藤倉夕張市長ほか全国から地方都市計画に関わる研究者約 30 名が参加した。市長からは有意義な研究会で再度行って欲しい旨の意見があった。

歴史意匠専門委員会（主査：水野 信太郎君 委員数 17 名 委員会開催数 5 回）

例年どおり、道内各地の歴史的建造物の現状を把握し、保存・活用に関する意見を委員間で共有し、必要に応じて学会として社会に発言する活動を行った。2004 年度から文化庁、北海道教育委員会の調査に協力し、それを発展させた特定課題研究「北海道の近代和風建築調査研究委員会」の 3 期目を継続した。対外的な意見表明として、支部長名による「旧夕張鹿ノ谷倶楽部(夕張鹿鳴館)の保存に関する要望書」(道知事・夕張市長・加森観光あて)の作成に協力した。市民への啓発活動として、建築文化週間中の 10 月 20 日に「函館の歴史と歴史的建造物を探訪する」と題する建築見学会を実施し、道内から 24 名の参加者を得た。

北方系住宅専門委員会（主査：鈴木 大隆君 委員数 21 名 委員会開催数 2 回）

本委員会では北海道における「住まい」とそこでの「暮らし」のテーマを改めて考えるための活動として、11 月 17 日に「これからの住まいと暮らしを考える『住まい・暮らし見学リレー』」を、Sa design office 小倉 寛征氏設計の住宅「マオイの丘の家」の見学会で実施した(10 名参加)。住み手の住まい観と住宅のあり方、設計者の立場での住宅性能基準の役割、性能・保証と施主、設計者の責任、これからの住まいづくりの方向などについて議論を行った。

都市防災専門委員会（主査：南 慎一君 委員数 21 名 委員会開催数 2 回、幹事会 3 回、通信委員会 5 回）

支部研特別企画「風災害の事例と建築物の安全性の向上」の企画運営を構造専門委員会と合同で行い、開催報告を支部 HP に掲載し、広く情報提供を図った。建築文化週間事業では、「津波防災まちづくり体験学習 in ところ」の企画運営を行った(10/12-13)。また、3 年間の活動内容を「北海道地区自然災害資料センター報告」に投稿した。他学協会との連携は、日本風工学会と共催で「2006 年佐呂間町竜巻被害に関する報告会」を佐呂間町で開催した(11/21)。構造専門委員会と合同で、北大低温研藤吉康志教授による講演会「風・雲の科学と建築」を開催した(12/10)。調査研究については、建築災害調査方法研究委員会に協力した。

2.3 特定課題研究委員会の実施

(2006年度より)

建築災害調査方法研究委員会(主査：後藤 康明君 委員数9名，委員会開催数4回)

1. 第1回委員会 2007年6月8日(金) 出席7名
 - ・3つのWGの活動状況について報告を行い，年度計画スケジュールを確認した
 - ・前年度に行った自治体アンケートの集計結果の報告を行った
 - ・現地調査方法に関するアンケート内容について協議した
2. 第2回委員会 2007年11月16日(金) 出席6名
 - ・大学関係者向けに行ったアンケート結果を報告した
 - ・アンケート結果を元に，各WGの検討項目を明確にした
 - ・委員会報告書の構成について協議を行った
3. 第3回委員会 2008年3月21日(金) 出席9名
 - ・各WGの活動状況を確認した
 - ・報告書について各WGの内容を確認した
4. 第4回委員会 2008年3月28日(金) 出席9名
 - ・支部研究発表会に提出する原稿のチェックを行った
5. 道内大学関係者向けに災害現地調査についてアンケート調査を行った
6. 2008年度支部研究発表会へ活動報告書を提出した

北海道近代和風建築調査研究委員会(主査：羽深久夫君 委員数13名 委員会開催数4回)

2006年度より実施した「北海道の近代和風建築における建築意匠の展開過程と地域的特徴」の2年度目として、2004年度より実施した「北海道の歴史的建造物における和風意匠の展開過程」の研究成果を踏まえながら、北海道における近代和風建築の特徴を各地域ごとに共通してあらわれる和風意匠と、各地域ごとに特徴的にあらわれる和風意匠に大別して検討するとともに、既に調査済みの都府県の近代和風建築総合調査結果と比較しながら、北海道における近代和風建築における和風意匠の特徴を明らかにすることを目的とした。

道南地区(渡島・檜山)、道央地区(石狩、後志、空知、胆振、日高)、道北地区(上川、留萌、宗谷)、道東地区(網走、十勝、釧路、根室)の各地区であげられた近代和風建築のなかで特徴的な建造物について実測調査を行い、沿革、平面、断面、立面、細部意匠を明らかにしたうえで、それぞれの特徴を検討し、総括として北海道全体の近代和風建築の特徴を検討した。

研究成果の一部は、日本建築学会北海道支部北海道近代和風建築調査研究委員会：「北海道における和風意匠の地域的特徴」(日本建築学会北海道支部研究報告集No.80、pp.373～380、2007.7)において報告したが、2年度の研究成果は北海道支部第81回研究発表会にて報告予定である。

2.4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2007年度より)

寒冷地仕様書調査研究委員会(主査：長谷川 拓哉君 委員数21名 委員会開催数3回)

本委員会は、適正な寒冷地工事仕様の検討を行い、日本建築学会標準仕様書(JASS)に反映を行うことを目的に活動を行っている。2007年度は、以下の活動を行った。

- 1) 寒冷地工事仕様に関する問題点についての検討：寒中工事でどのような問題が生じているかについて、実務者に意見を聞き、代表的な事例をまとめた
- 2) 実務者へのアンケート調査：実務者を対象とし、JASSの認知度・利用度の把握とともに、寒冷地工事仕様に関して、どのような認識がなされているか、またどのような問題点があるかについて、アンケート調査を行い、実状を把握した。

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2007.5.24	小樽駅リノベーション基本設計に関わる評価提言業務	小樽駅リノベーション保存活用検討委員会 (委員長 角 幸博君)	北海道旅客鉄道(株)

4. 支部研究発表会の実施（主査：羽山 広文君 実行委員会委員17名 委員会開催数5回）

研究報告集 No.80(収録数:118 編)および CD-ROM 版を作成し、第 80 回支部研究発表会を以下のように開催した。

日時：2007 年 7 月 21 日（土）

場所：北海道職業能力開発大学校（小樽市）

参加者数：約 130 名

特別企画：シンポジウム「風災害の事例と建築物の安全性の向上」

司会：高井伸雄（北海道大学大学院）

[挨拶] 繪内正道（日本建築学会北海道支部長）

[趣旨説明] 南 慎一（北方建築総合研究所）

[基調報告]『風災害の事例』 進行：高井伸雄（前掲）

・強風災害・竜巻災害 植松 康（東北大学）

・風と竜巻の科学 藤吉康志（北海道大学低温科学研究所）

・災害対応 斎藤裕美（佐呂間町）

[総合討論]『建築物の安全性の向上』 進行：桜井修次（北海学園大学）

植松 康（前掲） 藤吉康志（前掲） 斎藤裕美（前掲） 亀田里志（札幌管区気象台） 南出孝一（(株)ドーコン） 高橋章弘（北方建築総合研究所）

5. 表彰

5.1 北海道建築賞

（1）北海道建築賞委員会（主査：大萱 昭芳君 委員 7 名 委員会開催数 3 回）

本委員会は 1975 年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞に相応しい作品を選考し、2007 年度で 32 回目となった。選考の基準としては、作品の有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」の視点を掲げている。

2007 年度は、4 月 15 日の応募開始から 11 月 2 日（金）北海道大学遠友学舎での授賞式および受賞記念講演会まで、2006 年度改正の新しいスケジュールで実施することができた。その利点は、現地審査の各作品を全委員で審査できたため、最終選考委員会では活発な意見交換をしながら審査を進められたことである。審査結果は、北海道建築賞に「函館市中央図書館」佐田祐一君、同奨励賞に「大成札幌ビル」高橋章夫君、同審査員特別賞に「当別田園コート」小室雅伸君となった。

受賞記念講演会は、各々、公共建築における社会的責任と設計理念実現のための視点と手法、ビル建築の環境負荷低減のための高度技術と空間デザインの統合、北海道木造住宅の環境性能と耐久性能を迫及する理念と緻密な設計手法について熱く語っていただき、懇親会も含めてたいへん有意義な催しであった。しかし、学生も含めて若年層の参加が少なかったことが残念であり、より一層の広報活動が必要と痛感した。

審査員：

主 査：大萱 昭芳君

委 員：内田 光彦君 大矢 二郎君 小篠 隆生君 鈴木 敏司君 前川 公美夫君
山田 深君

(2) 受賞者

北海道建築賞 佐田 祐一君（佐田祐一建築設計研究所）
作品名 「函館市中央図書館」の設計

北海道建築奨励賞 高橋 章夫君（大成建設）
作品名 「大成札幌ビル」の設計

北海道建築賞審査員特別賞 小室 雅伸君（北海道建築工房）
作品名 「当別田園コート」の設計

(3) 審査経緯

第 32 回北海道建築賞は、新しい北海道建築賞表彰規定（2006 年 4 月 27 日改正）に基づき、2007 年 4 月中旬の応募開始から始まり、授賞式・記念講演会に至るまで、従来とは異なる日程で始まった。

応募作品と委員推薦作品の公平を期するために、応募期間中の 4 月 20 日、札幌市内での委員会において委員推薦候補作品を選び、事務局から各設計者に正式な応募手続きを依頼した。

本年度の第一回審査会は、全委員参加のもと 2007 年 5 月 29 日に札幌市内で開催され、全委員同意の下に以下の審査対象 13 作品を確定した。そのうちの 6 作品 ～ が委員推薦による応募で、～ は支部主催の「建築作品発表会」参加作品でもある。下記の表記中、作品名に続く（ ）内には、主たる設計者である応募者氏名と同所属名を記した。

応募作品（順不同）：

BYO-BU（君 興治君 / ㈱君工務所）

函館市臨海研究所（山内一男君 / ㈱建築企画山内事務所）

大成札幌ビル（高橋章夫君 / 大成建設㈱）

月寒の長屋（名古屋英紀君 / エープラス名古屋英紀建築設計室）

GLASS&WHITE（豊嶋 守君 / ㈱画工房）

テスク本社ビル（豊嶋 守君 / ㈱画工房）

海の崖っぶちの SOHO（戸島健二郎君 / 戸島健二郎建築設計）

北海道薬科大学臨床講義棟 C（佐藤 孝君 / 北海道工業大学）

帯広市図書館及び一連の図書館建築（下村憲一君 / ㈱環境設計）

当別田園コート（小室雅伸君 / ㈱北海道建築工房）

ゲストハウス「ポエティカ」（畠中秀幸君 / スタジオ・シンフォニカ㈱）

情緒障害児短期治療施設バウムハウス（藤本壮介君 / 藤本壮介建築設計事務所）

函館市中央図書館（佐田祐一君 / ㈱佐田祐一建築設計研究所）

引き続き第一次書類審査に移り、現地審査対象作品が選考された。

最初に、作品選考審査の方法として、多数決ではなく議論を通じて全委員の同意を得ること、その評価の視点は、コンセプトと設計プログラムおよび実体的表現の「先進性」、時間・空間軸における自然を含めた人間社会に対する「規範性」、それらを統合して美の創造を目指す「洗練度」、とすることを再確認した。

各委員の個別評価と活発な議論の末に、現地審査に値する作品として、大成札幌ビル・北海道薬科大学臨床講義棟 C・当別田園コート・ゲストハウス「ポエティカ」・情緒障害児短期治療施設バウムハウス・函館市中央図書館の 6 作品（順不同）が選定された。

今年度から実施された新日程の利点を生かして、現地審査は委員 7 名全員の参加を原則として 3 回に分けて実施された。第 1 回は 6 月 27 日に札幌市内の 大成札幌ビル、第 2 回は 7 月 28 日に札幌近郊の 北海道薬科大学臨床講義棟 C・当別田園コート・ゲストハウス「ポエティカ」、

第3回は8月10日に伊達市の 情緒障害児短期治療施設バウムハウスと函館市の 函館市中央図書館で行われた。いずれも天候に恵まれ、事務局を含め8名で周辺環境から建築空間の内外まで詳細に観察し、設計者やクライアントとの意見交換を含めてたいへん有意義な現地審査となった。

9月12日、第二回審査会が札幌市内で開催され、全委員出席して現地審査作品を対象に最終選考が行われた。全委員が個々の作品すべてを実体験するという共通の基盤が整った今回は、対象作品ごとに各委員が現地審査に基づく意見を述べた。その後、受賞作品選考のための自由討議に移り、多角的な視点からの活発で真剣な議論のなかで個々の作品の評価と意義が整理され、全委員の総意として受賞作品を決定した。以下の三賞である。

北海道建築賞に「函館市中央図書館」佐田祐一君/有佐田祐一建築設計研究所

北海道建築奨励賞に「大成札幌ビル」高橋章夫君/大成建設株

北海道建築賞審査員特別賞に「当別田園コート」小室雅伸君/有北海道建築工房

この三作品は、先進性・規範性・洗練度の全てにおいて高次元の優れた建築作品と各委員が一致して評価した。その他の三作品については、それぞれ秀作ながらもいくつかの問題点が指摘された。以下にその要点を述べ今後の活躍に期待したい。

北海道薬科大学臨床講義棟C:ボックス構造の操作による吹抜け空間と大きなガラスのカーテンウォールの構成には先進性と洗練度を認められるが、ラーメン構造との併用が曖昧で完成度が低くなっている。キャンパス全体の中での位置づけが明確ではなく、アプローチの構成と表現に問題が多く規範性の弱さが指摘された。

ゲストハウス「ポエティカ」:自然の木立の中に演奏ホールとゲストルームを持つ極めてシンプルな構成には、内外ともに潔さが表現されている。音響には細心の注意が注がれている反面、建築自体の空虚感が指摘された。音楽の豊かさを建築表現に転化できたとき、その洗練度も一層高まっていく。

情緒障害児短期治療施設バウムハウス:第30回北海道建築奨励賞を受賞した作者は、先進性・規範性・洗練度においてさらに進化した作品を実現した。内部空間の先進性と洗練度は特筆されるが、その空間構築手法に内在する外部との関係性の希薄さが規範性の弱さとして指摘された。

昨今は、地球温暖化に伴う環境問題や社会全体の規範性の欠如から未来への不安感が広がっている。このような社会状況のなかで、コミュニティ構築の中核装置としてコミュニケーションの場を創出し続ける建築本来のあり方が、極めて重要な時代となってきた。今回の審査では、そのことに真正面から取り組んでいる建築の持つ力強さと美しさ、設計者の強い信念と深い努力を実感することができた。

(文責:大萱 昭芳)

(4) 審査講評

北海道建築賞 「函館市中央図書館」

函館市中央図書館は、かつて道南の行政の中心を任う旧北海道渡島支庁舎の跡地に公募型の設計プロポーザルで選定され実施された作品で、函館市の史跡であり、公園の性格を持つ五稜郭に隣接して建つ。

三角形の変形した敷地は、最長辺を交通量の多い幹線をはさんで五稜郭公園に接している。いかにも窮屈な利用勝手の悪い敷地の形状は、平面計画上大きな制約になっている。

利用しやすい図書館を目指した建築は、1階部分の面積を平面計画上最大限に確保しようとしている平面計画から窺える。結果、外部にまとまったオープンスペースを設けず通り庭的な建物に沿ったオープンスペースを設け、五稜郭公園に向かった低いスケールのレンガのファサードの構成が程良いヒューマンなスケールの風景を生み出した。

正面玄関を入ると光庭を囲んだ空間には、多くの利用者が様々な姿勢でベンチやイスでくつろぐ姿がある。あえて内側の光庭に向けたロビーの空間は明るく、心地よく、軽い飲食やおしゃべりも受け入れられ、利用者にとって肩の張らない敷居の低い、開かれたこの図書館の性格を示している。

敷地の三角形の形状に沿わせた開架閲覧空間を、最短部9m、最長部37m程の大きな三角形の平面を持つ迫力のある大空間として現出させた。平面形状からくる窮屈な印象に比べ、建築外部の構成からの要素も大きいはずであるが、大変落ち着いた豊かな空間となっている。三角形の

頂部から広い辺に向けて、徐々にせり上がる屋根型に沿って空間が構成され、空間のボリュームの広がり、パースペクティブとの逆の効果として、不思議な空間の納まりとなっている。利用するものには変形した空間を感じさせない。

ボリュームの豊かさは、同じ空間を利用する多数の利用者にとっても、本を選び、本を読み楽しむ空間として、快適な時間を過ごすことのできるバランスの良い空間となっている。長い壁面にはお話し空間や地域と密接した函館コーナーなどの小空間が入れ子様に構成され、外部との関係を持った変化にも富んだ小スペースを数多く生み出している。

プロポーザルコンペ以前から市民レベルの参加を見ながら、高度に形成された図書館利用の計画は、この建築の中で素直に実現されているように感じた。結果、この図書館の日常の利用者は大幅に増加している。

この図書館の持つ複雑な建築プログラムを、無理せず解決し魅力的な建築として生み出した設計者に、図書館建築への豊かな経験を感じる。

公共建築の在り方が問われている。来館者にとって求められる利用価値の高い機能を、質の高い空間の中で実現させた優れた公共建築として高く評価したい。

(文責：鈴木 敏司)

北海道建築奨励賞 「大成札幌ビル」

「京都」(京都議定書の意味)をどのように達成するかという問題だけでなく、地球環境問題は今や建築を考える際にも必須の配慮事項である。建築は、その立地条件によってそれぞれ異なる環境への負荷をどのように軽減するか個別の対応が求められるのが特徴でもある。

「大成札幌ビル」は、真正面よりこの問題に取り組んだ作品である。環境に対する配慮について建築を計画・設計する際に考える場合、それは、何か1つの技術で解決できるわけではない。断熱、冷暖房システムといった室内環境技術だけではなく、それらを効率的に生かすことのできる構造、意匠の技術も同時に用いることができなければ、真の環境配慮型建築は生まれない。

「大成札幌ビル」では、外皮を取り巻くコンクリートの壁は、きわめて高い制震性能を持つ構造体であり、必要最小限にしばられたスリット状の開口部は、熱損失を極力防ぐための構造と意匠からの解答である。しばられた外光を確保するために中心部に設けられた吹き抜けには、トップライトと太陽光自動追尾型採光装置より、柔らかな光がほぼ無柱に近い執務空間に適切に届いている。また、内装がほとんどない室内には、床に埋設された冷温水配管を施し、熱負荷の大きいコンクリートの躯体を使った躯体蓄熱放射冷暖房を行い、さらに床全面吹出空調システムの採用により気流を感じない快適な室内環境を達成している。さらに、平面計画として、固定化されないワークスタイルの実現を図るためにユニバーサルで、可変のオフィスレイアウトを行い、ユーザの利用の変化にも追従することを目指した新たな事務所空間が実現している。

環境への配慮といった時にもう1つ重要なこととして、建築の周辺環境に対してどのような配慮がなされているのか、街並み・景観、あるいは地域の持つ独特の文化への配慮という点がある。CASBEEの評価項目を考えてみてもこの点に関しては、もう少し積極的な提案があってもよかったのではないだろうか。

いずれにしても、このように意匠、構造、設備のそれぞれの技術が、どの分野にも偏りはせずに、適切なアSEMBルを行って1つの建築空間が実現していることは、それぞれの個別技術に高い技術力と持っているのと同時に、アSEMBルされた技術の積み重ね、組み合わせが快適な建築空間をもたらすことが出来るという洞察力と構築力の高さがなければ実現しなかったであろうし、その点が高く評価される部分である。

差し迫った地球環境への配慮という命題に、北海道という地域に建つ建築の1つとして真摯なまでの取り組みをした作品として、北海道建築賞奨励賞を授与し高く評価するものである。

(文責：小篠 隆生)

北海道建築賞審査員特別賞 「当別田園コート」

JR 学園都市線と並行して、前面道路と背後の山並に挟まれるようにして、銀色の切妻屋根が数軒適度な間隔を空けながら横に長く連なっている。当別田園コートは、この軒の連なりのひとつ

としてある。敷地幅一杯に広げられた間口は 30m にもおよび、周囲と連続しつつも一般的な住宅のスケールを超えた伸びやかさを感じさせ、それは何か“村の小学校”のような、質素でありながらも規則正しい律儀さを伴った佇まいにも見える。

建築の設計行為とは、様々な水準での条件を解くことでもあるのだが、この住宅の設計条件は大きく 4 つにまとめられるものであった。つまり、画家夫婦のアトリエ兼住居であり、かつ息子夫婦の週末住宅でもあること、豪雪地帯における雪の処理、断熱を含めた構法的合理性、

銀色の切妻屋根をルールとする建築協定、である。ここでの設計作業は、各々の条件にひとつずつ丁寧に応えて積み上げていくというよりは、4 つの条件に対し同時に「解」を導くような地点を探ることであったのではないかと思われる。ある意味で大雑把に見えなくもないシンプルな住宅ではあるのだが、ここでの建築的操作は、4 つの条件に複合的に応えるものとなっている。

例えば、6×30m の細長いボリュームは、集成材フレームの 3×3m をモジュールとしつつ、切妻屋根からの落雪を幅広く分散させるための長さでもあり、ふたつの家族の空間を成立させる“距離”ともなっている。また、落雪によって開口部が埋もれることのないように、連続した高窓から十分な光を取り入れつつ、2ヶ所に挟まれたテラス部分に掃き出し窓を限定し、同時に、このテラスによって 24m の長さの空間が緩やかに分節され、要求された生活空間としての機能にも対応している。建築協定のルールも元来は景観の問題として設定されたものであろうが、ここでは構法・雪の問題としても解かれているわけである。

つまり各々のデザインが有機的に関連しあいながら、4 つの条件に対する“合理的”な「解」として全体が成立しているのであり、ディテールや家具に至るまで余計なものがない。作者の長年にわたる試行の蓄積と相当なスタディの裏打ちがなければできないことだろう。そういう意味において、小品でありながらも力強い説得力があり、北海道の住宅作品としてのひとつの到達点であるともいえるかもしれない。

重要なのは、北海道の建築としての“作法”のようなものを鵜呑みに前提とすることなく、といてそこから遠く離れることもなく、特殊な環境的条件を含めた様々な条件を素直に吟味し、それに的確に回答しながら全体を構築していこうとする設計の姿勢であるように思う。それは、情緒的あるいは抽象的な既成概念に頼ることでもなく、単なるテクニカルな処理に留まることでもなく、建築デザインを広くそれぞれの地域性へと開いていく契機ともなりうるものだろう。結局のところ、地域性の表現とは、常々の深い洞察からしか生まれ得ないのである。

(文責:山田 深)

5.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会(主査:渡邊 広明君 委員数 6 名 委員会開催数 1 回)

2007 年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、審査方針の確認とともに各委員選定の候補作品について推薦を行い、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の分野別に候補作品各々について合同において再審査し、合議の上、各賞を選出した。

本年度は、特に各部において力作が多く、「大学」の部で金賞 2 点、「工業高校」の部で銅賞 2 点の選定となった。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員:

主査:渡邊 広明君

委員:加藤 誠君 上遠野 克君 小西 仁彦君 斉藤 徹君 中山 眞琴君

(2) 受賞者

大学の部 (応募作品数 12 点)

・金賞 南 瑛記君:北海道大学工学部建築都市学科
作品名 engrave - 海の炭の路

- ・金賞 渡辺 拓哉君：室蘭工業大学建設システム工学科
作品名 650 - greenfieldbreakforest -
- ・銅賞 遠藤 光君：北海学園大学工学部建築学科
作品名 音のランドスケープ
- ・銅賞 青木 駿亮君：室蘭工業大学建設システム工学科
作品名 PARALLEL
- thick wall museum . House in wall . -

短大・高専・専門学校の部（応募作品数6点）

- ・金賞 田中 茂君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 個と群から生まれる関係性の再構築
- ・銀賞 竹下 恵君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科専攻科
作品名 余市のワイナリー
- ・銅賞 細川 義人君：北海道職業能力開発大学校建築施工システム技術科
作品名 矩形中の地形 project landform in the rectangle

工業高校の部（応募作品数9点）

- ・金賞 佐藤 裕美君：北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 Stage~play・Scenery・Rest~
- ・銀賞 對馬 彰太君：北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 北彩都あさひかわ「Back Street」
- ・銅賞 永江 俊祐君：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 新函館市民体育館 EVOLUTION~新たなる進化の糧に~
- ・銅賞 伊藤しずか君：北海道室蘭工業高等学校建築科
作品名 「三角関係」~新しい第三の観光地~

(3) 審査講評

大学の部

金賞・南君

産業遺産再生と呼ぶのが相応しいのか、炭鉱跡のコンバージョンである。かつての記憶を再構築しつつもその気配を大切に、しかも新鮮に新しい機能を潜入させていく手法は図面を見る限り空気感が伝わってくる。炭鉱の持つ独特な暗さや不透明感を味に変化させ、よくみるとほとんどが新しく設定されているにもかかわらず、記憶をつぶすことなく生き続けさせることに成功している。バランス感覚の良い秀作は金賞に値する。

（文責：小西 彦仁）

金賞・渡辺君

その思い切りの良いタイトルにまず目が奪われ、次にその色づかいに何かを感じ、そして全体の図面のレイアウト、表現、どれをとっても一級品であることは間違いない。私の知る限りでの卒制のプレゼンテーションの中ではトップワンに位置する。宿泊室の空間にまだまだ密度が足りなかったり、斜めにそびえ建つフィンがちょっとオーバースケールだったりするものの、ストーリーやドラマを充分に感じる構築性はあまりにも秀逸である。私個人としても、いじくりまわす建築が横行している建築界の中で建築の持つ価値というのはこんなプリミティブなことなんだと教えられた気がする。

（文責：中山 眞琴）

銅賞・遠藤君

都市にはどれほどの量と種類の音が存在するのであろうか。我々が気づかないほど麻痺してしまっている騒音や、心を左右する自然の音、創造された音楽。私達はなんとなくそれを受け入れながら生活している。そんな日常の中に建築というフィルタ

ーを通して音をランドスケープし、建築化させた作品がこれである。

そのオリジナリティーあふれる美しい造形、素材の使い方や四角錐の合わせに何か「新しさ」を感じた。音という着目点もなかなか良い。建築化する上で人と音との関係性が不明瞭なのと、機能性と形態の論理性が弱く感じられた点が残念である。

(文責：中山 眞琴)

銅賞・青木君

美術館と住居がネガ・ポジの関係で1つの箱の中に立体的に展開している作品です。大きさの異なる展示室と、その隙間にありながら決して出会う事のない住居が、上からの光のみを共有して、共生しているイメージが、モノクロームのプレゼンテーションの中で文学的佇まいをもって表わされ、又模型の中に表現されている2本の平行なスリット(展示室も住居もオープンスペースも貫通している)が作品をより多義的なものを感じさせています。

(文責：上遠野 克)

短大・高専・専門学校の部

金賞・田中君

田中君の案は現在の住宅地における一般的な配置計画を解体して、敷地いっぱい平面計画を広げ中庭を取ることで、プライバシーを確保しつつも高さの違う屋根に人がのれそれが近隣とのコモンスペースともなりえる。この住居が展開していくにより街が立体的につながり新たな住環境が再構成される期待感が評価され金賞となった。

(文責：小西 彦仁)

銀賞・竹下君

CADによる図面が並ぶ中、2mを超える2枚の手書き図面は、魅力的だ。全てを鉛筆で描ききった潔さとともに、丁寧な表現(やや力強さが欠けるが)は、集中した設計者の姿勢として、評価された。ただ、フィールドパターンと建築との融合や、ランドスケープ、空間性の魅力づけには、工夫の余地が残る。描ききったということで満足することなく、構想の提案力を高めること、一本の木を力強く、魅力ある姿に描く研鑽を続けて欲しい。何度も書き直し、手を加えることで、より印象的な魅力ある提案になるだろう。

(文責：渡邊 広明)

銅賞・細川君

札幌都心部の典型的な街区を敷地として選び、そこに建つ建築物の延命を図りながら場所の魅力を高める提案である。街区全体に施す手法を「ボイド」、「削る」、「補強」の3つに限定することで、多様でありながら秩序のある個性を作り出すことに成功している。しかし、どのような魅力が得られたかについての表現が弱く、総花的なのが惜まれる。魅力とは、格子状街区における新しい風景なのか、公共スペースの居心地のよさか、テナント空間の性能向上と安全性確保か、環境負荷の削減なのか。どれも深いテーマであるが、重要だと思えるものを果敢に探求することで案の個性と強度を獲得できたのではないか。

(文責：加藤 誠)

工業高校の部

金賞・佐藤君

道の駅をテーマに、「主旨、原点、基本概念、空間形成コンセプト」と、タイプスタディや施設が成立する関係性等について、建築プロセスとして、提案内容に至る論理を丁寧に整理し、位置づけている。さらに、建築の自由で伸びやかな展開や、建築周辺も含めたデザインの熟度は高い。模型、CGと多彩な表現を行いつつ、一つひとつの丁寧さが完成度として評価できる。さらなる研鑽が楽しみです。

(文責：渡邊 広明)

銀賞・對馬君

高校生のレベルを超えた素晴らしい作品です。ともすると、街の裏側になってしまうショッピングモールと高架下スペース及び街路を複合利用する計画案ですが、プログラムとプランニングの内容・説明共とてもよく考えられています。もう少しアクティビティの「楽しさ」「にぎわい」がプレゼンテーションにも表現されていたらより良くなったと思います。

(文責：上遠野 克)

銅賞・永江君

函館湯の川地区に現存する市民体育館の改築構想案である。設備の整った広く使いやすい体育館づくりをテーマに、来場した人がリラックスできるようにサンルーム、カフェテリアを設けている。

前庭を広く確保しながら二つのメイン・サブのアリーナのブロックを機能的に配置し、そのアリーナのアーチ状の二つの屋根が外観デザインの特色となっている。図面には機能別に色分けしたプランや外観パースを丁寧に表現していて、その力量を評価したい。

(文責：齊藤 徹)

銅賞・伊藤君

美術館のない室蘭市で、地元に関わる芸術家の作品を市民や観光客に触れてもらいたいという意図を、しっかり持った美術館の提案である。建設地を測量山と白鳥大橋に対し三角形の位置になる港湾用地を選び、測量山と白鳥大橋のその日の時間や四季を感じてもらえるように、屋上には屋根付きの広い展望スペースを設けている。

多くの人を訪れる第三の観光地になって欲しいというテーマが、長円形の組み合わせによる特徴のある外観に表現されている。中央部を講演の場に、展示室を吹き抜け空間にするなど、基本的な空間構成力に優れている。模型を丁寧に制作している点も評価できる。

(文責：齊藤 徹)

5.3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2007年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

森本 佳恵君・伊藤 桜君：北海道大学工学部建築都市学科
星野裕紀子君・小林 洋君：北海学園大学工学部建築学科
平川 希君・中原 里紗君：北海道工業大学工学部建築学科
西村 和浩君・金谷 祥平君：室蘭工業大学工学部建設システム工学科
山上 達也君・佐藤 未知君：北海道東海大学芸術工学部くらしデザイン学科
櫻井 芙美君・小西祐太郎君：道都大学美術学部建築学科
谷口 範文君・黒田 智英君：釧路工業高等専門学校建築学科
近藤 未沙君：札幌市立高等専門学校専攻科インダストリアルデザイン専攻
成田 梓君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
足立 晴美君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
村上 雄軌君：北海道職業能力開発大学校建築科
佐橋 理美君：札幌国際大学短期大学部総合生活科
木戸 優貴君：北海道立正学園旭川実業高等学校建築科
大西 陽介君：北海道札幌工業高等学校建築科
下坪 達也君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
三上 智香君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
黒田 大介君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
永江 俊祐君：北海道函館工業高等学校建築科
尾形 拓哉君：北海道函館工業高等学校定時制建築科

山下 輝彦君：北海道旭川工業高等学校建築科
片岡 祐介君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
久木 悠大君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
田嶋 矩和君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
金山 和貴君：北海道帯広工業高等学校建築科
中屋敷沙也君：北海道釧路工業高等学校建築科
川口 春輝君：北海道名寄光凌高等学校建築システム科
松田 昂士君：北海道美唄工業高等学校建築科
伊藤しずか君：北海道室蘭工業高等学校建築科
寺本 潤一君：北海道留萌千望高等学校建築科
石森 基裕君：北海道北見工業高等学校建設科

5.4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2007年度は、最も長期に亘り支部会員を継続された以下1社の法人・賛助会員表彰した。

株式会社 札幌日総建

5.5 日本建築学会北海道支部技術賞

- (1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：武田 寛君 委員数 10名 委員会開催数1回）
選考委員：支部長、学術委員会委員長、各専門委員会主査）の計10人
開催日時：3月10日（月） 17:00～
場 所：日本建築学会北海道支部会議室
第1回技術賞の選定部会を行った。応募数は1件。

(2) 受賞者

北海道支部技術賞 川本 謙君（土屋ホーム）
表彰技術名 外断熱の「BES-T構法」

(3) 審査講評

本賞は、創造性豊かな建築・都市に関する技術の開発者を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的として設けられた賞である。建築雑誌の10月号に応募要領が掲載されたが、応募は1件しかなかった。

選考基準は、北海道の建築界の技術の向上に資するものであることで、地域性、独自性、有効性、新規性の4点を評価項目とした。

本件の開発思想は、仕様規定から性能規定への改定、及び、地球温暖化防止対策としての省エネルギー基準の整備見直しを受け、高齢者対応、耐久性・省エネルギー、環境共生を開発思想として、外断熱の「BES-T構法」を開発した。この構法の特徴として

- 1) 外断熱構法 構造躯体をSEベストボードで覆い、熱橋と内部結露を抑制する。
- 2) 基礎断熱と床下換気システム 基礎断熱、防湿土間コンクリート、床下換気システムを導入し、床下の湿気と床面温度の問題を解決した。
- 3) 24時間換気システム 安定した室内空気環境と、換気による熱ロスを熱交換型換気（第1種）の採用で、省エネを実現。

- 4) 接合金物 接合部に構造金物を採用し、強度向上、施工合理化、品質の安定を実現。
- 5) エンジニアリングウッド エンジニアリングウッドの採用で、構造躯体の強度向上、安定品質の確保と、ベストEボードで壁の面耐力及び防蟻性能の向上。
- 6) 高性能断熱サッシ 熱ロスが大きい窓にPVCサッシとLow-Eガラスを採用し、熱、雨、騒音をシャットアウト。
- 7) バリアフリー 高齢化社会に向け優しく快適に生活するために、バリアフリーの設計思想を導入。
- 8) プレカット 品質の安定した構造躯体の供給と、現場でのゴミの削減、工期短縮、施工合理化を実現。

上記1)～8)の通り、住宅メーカーとして、住宅全体の諸問題について、積極的に取り組んでおり、総合的に判断して、本件は技術賞に値すると判断した。

今後、断熱材の取り付け方法、及び、外壁の防火に関する開発をお願いしたい。

(文責：武田 寛)

6. 北海道建築作品発表会の実施

- (1) 北海道建築作品発表会委員会(主査：佐藤 孝君 委員数3名 実行委員10名 委員会開催数4回(実行委員会1回を含む))

ここ2年間で定着してきた12月初旬発表会開催というスケジュールを継承し、北海道建築作品に対するフラットな発表と議論の場を提供することを念頭において、本年のスケジュールと内容を決定した。また、効果的な経費削減に取り組み、応募案内等の支部HPの活用や、プログラム・ポスターの経費見直し、作品集の原価圧縮などに取り組み、収支の好転を目指した。さらに、発表形式についても作品紹介、質問募集、発表という昨年の形式を踏襲することを委員会で決定した。

また、建築賞委員会、事業主連絡会、さらには、常議員会との協議により、前回から作品発表会にエントリーされた作品は、同時に北海道建築賞への推薦に対する参考作品とみなされている。

実行委員会は、7名の実行委員を加え10名で組織した。発表方式の変更の確認、作品の受付、プログラム編成、プレフォーラムという流れに沿って3回開催した。すべての発表はPowerPoint等によるPCを使ったものとし、今回は33作品の作品が集まり、盛況な開催となった。

12月7日に第27回建築作品発表会を北海道立近代美術館講堂で開催、作品集VOL.27を発刊した。発表会での議論の記録、発表作品の分析等を含めた活動記録と評論を北海道建築士事務所協会誌「ひろば」12月号に石黒浩一郎君が、建築雑誌3月号に中渡憲彦君が執筆した。

- (2) 北海道建築作品発表会の開催

第27回北海道建築作品発表会

期日 2007年12月7日

会場 北海道立近代美術館講堂

発表作品数 33題

大変好評であった発表作品に対する発表者と来場者との議論の活性化を目指した事前質問募集、全発表者に対する均等な発表時間の割当という昨年より実施したプログラムを今年も踏襲して発表会を行った。今回集った33作品もデビューする若手の作品から、従来より北海道建築界の先導役となってきた重鎮の方の作品まで多彩にそろい、そういう意味でも多様な議論が展開される発表会となった。これは、本発表会が北海道における建築作品の発表の場として広く定着して来ていることを示すものであると理解できる。27回という長い歴史を持つ発表会を今後も持続しつつ、絶えず時代に即応したニーズを汲み取りながら、学会における建築作品の発表の場を築いていきたい。

参加者約400名。「北海道建築作品発表会作品集2007 VOL.27」を発刊。

7. 特別委員会

7.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、事業系担当常議員、連絡会開催数1回）

昨年度、決定された通り、建築文化週間中に第32回の北海道建築賞授賞式と記念講演会が実施された。また、事業主査連絡会を通じ各委員会主査の合意が得られた通り、建築作品発表会の発表作品が、建築賞への推薦候補作品にもなり、2007年度審査より実施された。

卒業設計審査委員会より出されていたHPへの入選作品の掲載については、HP管理委員会との連携し2006年度までを掲載している。

7.2 総務委員会（委員長：羽山 広文君 委員数4名 委員会開催数1回）

北海道支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理について主に検討を行い、四半期に一度の頻度で常議員会にて報告を行った。また、次年度の予算案策定について検討した。日本建築家協会北海道支部との合同委員会において、建築関連の情報交換を行うとともに、合同企画についての検討も行いジョイントセミナー(2回)を実施した。

7.3 ホームページ管理委員会（主査：十河 哲也君 委員数5名）

当委員会は、2001年4月に開設された当支部ホームページの管理を活動の目的とし、委員会の定例開催は特に設定していないが、掲載内容等について適宜通信により協議することとしている。2007年1月より、新しいホームページ管理委員会規定に基づき活動しており、講演会の開催案内、北海道支部研究発表会や北海道建築作品発表会の募集案内等の掲載を行い、北海道支部の広報として活動した。しかし、それぞれの責任において実施することとしている各種委員会のページ更新が十分実施されていない現状にあり、各委員会は、会員への情報提供としてホームページを積極的に活用するよう、あらためて要望する。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8.1 講習会

(1) 本部主催講習会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
2007年度支部共通事業「小規模建築物基礎設計指針」講習会	2008.2.27	ホテルノースシティ	青木 功君 他4名	94名

(2) 支部委員会主催講習会（セミナー）

なし

8.2 講演会

(1) 本部主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
2007年度日本建築学会賞（作品）受賞記念講演会「作品を語る」	2007.7.10	北海道大学学術交流会館講堂	古谷誠章君 他2名	約160名

(2) 支部主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
柴田拓二先生日本建築学会賞 教育賞受賞記念講演会 「Two are better than one」	2007.7.6	札幌アスペンホテル	柴田拓二君	約 90 名
「第 32 回北海道建築賞授賞 式・記念講演会	2007.11.2	北海道大学遠友学舎	佐田祐一君 他 2 名	約 40 名
第 27 回北海道建築作品発表会	2007.12.7	北海道立近代美術館 大講堂	作品数 33 点	約 400 名
「フリーウェアを活用した 空間デザインについて」	2007.12.10	北海道立帯広工業高 等学校	門谷眞一郎 君	88 名

(3) 支部委員会主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
「設計地震力低減効果(構造特 性係数 Ds について」 (構造専門委員会)	2007.7.26	札幌テレビ塔	麻里哲広君	40 名
日本建築学会北海道支部・東北 支部合同企画 児童福祉・建 築・学際シンポジウム+藤本壮 介バウムハウス見学会 「空間から考えるこれからの児 童養護系施設」 (建築計画専門委員会)	2007.10.20	情緒障害児短期治療 施設バウムハウス	藤本壮介君 他 5 名	132 名
「津波防災まちづくり体験学習 in ところ」 (都市防災専門委員会)	2007.10.12 ~13	北見市常呂中央公民 館	鏡味洋史君 他 10 名	1 日目 87 名 2 日目 45 名

8 . 3 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2007.5.16 ~5.18 5.25~28 6.2~6.4 11.14~16	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道東海大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	158 名 385 名 約 100 名 約 150 名
2007.6.25 ~12.11	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 13 校	

8.4 見学会

開催日	見学場所	解説者	参加者数	主催
2007.9.12	現場施工見学会 「大和生命札幌大通り西5丁目計画、釧路道新施工事例」	現場担当者	20名	材料施工専門委員会
2007.10.20	建築文化週間「函館の歴史と歴史的建造物を探訪する」	山本真也君 他1名	24名	歴史意匠専門委員会
2007.10.31	「創成川通アンダーパス連続化工事現場見学会」	南出孝一君	19名	構造専門委員会

9. 本部関連事業・その他

9.1 2007年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会（主査：川人 洋志君 委員数5名 委員会開催数1回）

委員会活動として設計競技審査会を2007年7月9日、午後5時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「人口減少時代のマイタウンの再生」であり、11案の応募があった。5名の委員全員による活発な討議を経て中山健介（他3名）案、井上俊行（他3名）案、青木潤（他1名）案、鎌倉敏士案の4案を支部入選案として決定した。

支部審査員：

主査：川人 洋志君

委員：赤坂 真一郎君 小西 彦仁君 那須 聖君 山之内 裕一君

(2) 審査講評

支部入選：中山 健介君他3名（室蘭工業大学）

「コウジョウダイガク」は、大学生という若年人口の特殊性に着目し、大学が地域に融合し、本来の意味で次世代を担う構成員を育成する場を地域に再生しようとする提案課題は、今日「マイタウン」にあって旧態依然とした生活環境の現状が諸問題に連続する視点を問う。

室蘭市は海沿いに工場群、後背に街が展開する都市構成。しかし現状は、いたるところに広大なストック空間が広がりつつある。そこで、ストック空間へ活力ある大学施設を展開する。エネルギー源は学生。一見荒唐無稽な「マイタウン再生」のシナリオだが、暮らしの場の新しい発見と未来への可能性を評価した。（文責：山之内裕一）

支部入選：井上 俊行君他3名（室蘭工業大学）

都市郊外の大規模団地を対象とした本案は、都心回帰の流れによる人口減少とそれに伴うアクティビティの減少を課題として、調査に基づき、団地と周辺施設の関係性に注目している。人口減少によって団地内には余剰空間が生じるが、その部分を減築し、地上階部分をピロティにすることで、敷地周辺との連続性を形成し、その上で外部空間に、個人所有の部分、用途や行為の規定された部分、共用の空地の3つを混在させることで、様々な活動が併置する関係を作りだしている。外部空間の区分と規定された用途に団地の住民構成との関係が見だしにくいことと、配列した結果についてのシミュレーションに課題はあるが、目指した空間とアクティビティの内容が表現された提案として評価された。（文責：那須 聖）

支部入選：青木 潤君他 1 名（北海道大学）

この案は札幌の JR 北海道苗穂工場とその敷地内の導入線路を題材に計画されたものであり、工場や敷地のたたずまいを保存しながら、歴史的ストックとして時代のニーズに合わせた用途に変更するというものである。周辺環境の変化や時代の変化により、市民のおかれる環境は変化するが、変わらない風景としての提案は、「人口減少時代のマイタウンの再生」という題材の中において、街の一部が保存されることで精神的な安堵を与える好感もてる提案であった。

（文責：小西 彦仁）

支部入選：鎌倉 敏士君（新潟大学）

人口減少が続く北海道名寄市の再生計画案。市内における格子状の区割りを、街の歴史性に通じる都市の骨格としてとらえ、道路の必要度にヒエラルキーを与え統廃整理することで、現状よりも大きなサイズの格子状区画が街に現れる。建物は利用頻度の高い道路沿いに残され、あるいは再構築され、その背後に出現する広大な空地に、街を活性化する様々な仕掛けがなされるというスケール感は爽快である。また、過疎化という現実を受け入れつつ、繁栄の跡(都市全体としての大きさ)を残そうとする姿勢からはこの街への深い愛情も感じ取ることが出来る。潔い案の骨格に比べ、現れた広大な空地への仕掛けが弱く、全体のバランスを欠いた感は否めないが、それでも見る人に様々な可能性を想像させる提案であったことが評価された。

（文責：赤坂真一郎）

9.2 作品選集支部選考の実施

（1）作品選集支部選考部会活動報告（主査：米田 浩志君 委員数 9 名 委員会開催数 2 回及び 現地審査）

今年度の支部応募は 11 作品だった。昨年度より 3 作品増えた。11 作品中 6 作品が推薦枠である。初回の支部選考部会において、現地審査対象作品の書類審査を行った。書類のみで選出するには情報不足であるために、現地審査対象作品を全ての作品と決定した。その後、各委員の現地審査の分担を決めて、その結果を次回の支部委員会で報告することにした。2 回目の支部選考部会では、各委員の現地審査の報告を前提に作品の評価を行った。各作品それぞれに対して様々な視点から議論を行いながら、最終的には投票によって、推薦作品 6 作品を絞り込んだ。その後、A ランク該当作品を選考した。まず 3 作品に絞り込んだ。建築の総合的なバランスか建築のオリジナリティか、意見が分かれる場面もあったが、議論の末、最終的に 2 作品に絞り込んだ。残りの 4 作品に関しては優劣付けがたいとのことで全て B ランク作品とした。支部推薦作品として A、B のランク付けを行ったが、今回の 6 作品に関しては大きな評価の違いはなかったように思う。そのことは、北海道支部推薦 6 作品全てが掲載作品となったことから伺える。次年度以降は、さらに支部応募作品数が増えることを期待したい。

後日、北海道支部推薦 6 作品中 1 作品の設計者から、設計者の表記上の不都合から掲載辞退の申し出があった。残念な結果である。今後はこのようなことを避けるために、設計者の表記上のルールの周知を徹底したい。

審査員：主査：米田 浩志君

委員：石田 純枝君、植田 暁君、金沢 俊邦君、川村 敏彦君、
小西 彦仁君、関 弘義君、本井 和彦君、山之内 裕一君

（2）作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 11 点

支部選考通過作品数 6 点（本部採用 5 点）

作品選集掲載作品

- 北海道薬科大学臨床講義棟 C
 - 佐藤 孝君：北海道工業大学
 - 芳川 朝彦君：a - plus 芳川朝彦建築設計室
 - 東宮 英明君：大成建設設計本部
 - 芹澤 智君：大成建設札幌支店
- 大成札幌ビル
 - 橋本 緑郎君：大成建設設計本部
 - 高橋 章夫君：大成建設設計本部
- 釧路市こども遊学館
 - 山木 優敬君：アトリエブク
 - 金箱 温春君：金箱構造設計事務所
- 函館市中央図書館
 - 佐田 祐一君：佐田祐一建築設計研究所
- 海の崖っぶちの SOHO
 - 戸島健二郎君：戸島健二郎建築設計

9.3 建築文化週間

(1) 体験学習「津波防災まちづくり in ところ」

テーマ：津波防災まちづくり体験学習 in ところ

主催：日本建築学会北海道支部、災害委員会

共催：北海道立北方建築総合研究所、北見市、特定非営利活動法人環境防災研究機構北海道

後援：北海道（総務部危機対策局防災消防課）

日時：2007年10月12日（金）14：00～17：00

13日（土）9：00～13：00

会場：北見市常呂町中央公民館

プログラム：

12日（金）津波防災セミナー

1. 基調講演

テーマ：「北見市における地震・津波災害」

講師：北大名誉教授 鏡味洋史氏

2. パネルディスカッション

テーマ：「地震・津波防災における公助に求められているもの」

パネリスト：麻里哲広君 南慎一君 渡辺千明君 小笠原聖君 木村孝義君
上田幸作君

3. 津波避難の促進に係るワークショップ

コーディネーター：北見工大 准教授 高橋清君

13日（土）親子で学ぶ津波防災まちづくり体験学習

講師：高井伸雄君 大柳佳紀君 南慎一君

1. 地震と津波の話

2. 室内避難体験

3. まちなか探検

4. 防災マップづくり

5. 避難食づくり

参加者：第一日目 87名

第二日目 45名

(2) 見学会及びシンポジウム

テーマ：函館の歴史と歴史的建造物を探訪する

主 催：日本建築学会北海道支部
 共 催：北海道建築士会函館支部、函館の歴史的風土を守る会
 後 援：函館市教育委員会
 日 時：2007年10月20日（土）9:30～16:30

見学場所：函館市

天祐寺・東本願寺・石井邸・旧イギリス領事館・赤レンガ倉庫群・函館公園・旧ロシア領事館・五稜郭公園・見晴公園（車中からの建物外観見学を含む）

講師：函館市 山本真也氏
 函館市教育委員会 田原良信氏

参加者：24名

（3）講演会

テーマ：第32回北海道建築賞（2007年度）授賞式及び記念講演会

第32回北海道建築賞（2007年度）を受賞された方々に、受賞作品を語っていただきました。

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：2007年11月2日（金）17:00～20:30

講 師：高橋 章夫君（第32回北海道建築奨励賞）「大成札幌ビル」の設計
 小室 雅伸君（第32回北海道建築賞審査員特別賞）「当別田園コート」の設計
 佐田 祐一君（第32回北海道建築賞）「函館市中央図書館」の設計

会 場：北海道大学遠友学舎（札幌市北区北18条西6丁目）

参加者：約40名

10．建築関連団体との活動

10.1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名、開催数：2回）

本委員会は、合同事務所の運営および合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、北海道建築設計会議の活動、関連団体を含んだCPDの認定についてである。AIJ-JIA ジョイントセミナーは、第12回、2007年7月25日、講師：坂井文君(北海道大学)参加者40名、第13回、2007年12月6日、講師：森 傑君(北海道大学)参加者30名を実施した。

10.2 北海道建築設計会議（幹事会 9回）

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、星卓志と大澤一彦の2名を参加させた。幹事会においては、新しい建築確認制度等について情報交換や意見交換を行った。

11．共催・後援（2007年度内に申請のあったもの）

期 日	名 称	会 場	主 催
2007.4.16	「高齢化社会における移住と地域再生 高齢者の移住が地域を再生する」 (都市計画専門委員会後援)	北海道大学工学部 A 棟 151 会議室	北海道大学・ニューカッスル大学
2007.5.11	「これまでの研究活動ふり返って 研究業績の紹介と積雪	北海道大学学術交流会館	(社)北海道建築技術協会

	寒冷地における今後の研究課題」(環境工学・北方系住宅専門委員会後援)		
2007.7.25	ジョイントセミナーA&J 「公共空間の再生：ロンドンのオープンスペース再生計画」	㈱内田洋行北海道支社 「協創広場U - cala」	(社)日本建築家協会北海道支部
2007.8.26	第32回北の住まい住宅設計コンペ		(社)北海道建築設計事務所協会
2007.10.18 ~20	「建築構造展 in 北海道 2007」	札幌地下街オーロラタウン「オーロラプラザ」	(社)日本構造技術者協会北海道支部
2007.9.5 ~12.21	札幌市立大学・市民公開セミナー 「北国のポテンシャルを活かす住まいの環境～「涼しさ」・「温かさ」のデザインとは何か～」	札幌市立大学	札幌市立大学サテライトキャンパス
2007.11.2	「連続繊維補強材に関する技術講演会」	北海道大学学術交流会館	建設用先端複合材技術協会
2007.11.21	「2006年佐呂間町若佐地区で発生した竜巻災害に関する報告会」	佐呂間町若佐コミュニティセンター	日本風工学会
2008.2.1 ~2.10	JIA北海道支部20周年記念建築家展 「ココでくらす ココロでくらす」	北海道立近代美術館	(社)日本建築家協会北海道支部
2008.2.13	「第18回旭川建築作品発表会」	旭川市科学館 「サイバル」	旭川まちなみデザイン推進委員会
2008.3.14	社団法人空気調和・衛生工学会90周年記念北海道支部特別企画シンポジウム 「“寒冷地における暖冷房システムの省エネルギー性と環境性の評価” 環境建築の実現に向けた協働と役割」	北海道大学百年記念会館	(社)空気調和・衛生工学会
2008.3.4 ~3.14	「建築士のための指定講習会」	ソネビル 苫小牧市民会館 サン・リフレ函館 旭川建設業会館 オホーツク・文化交流センター かでの2・7	(社)北海道建築士会
2007.3.28	「フランク・ロイド・ライト入門 その空間づくり四十八手」	㈱内田洋行北海道支社 「協創広場U - cala」	新建築家技術者集団北海道支部

2007 年度財産目録及び収支決算報告

2007 年度 財産目録

日本建築学会北海道支部

資産の部					資金および負債の部					
摘要		前年度末	本年度末	比較	摘要		前年度末	本年度末	比較	
基本財産					資産	支部基金	3,510,000	3,110,000	-400,000	
						学術振興基金	3,890,000	3,800,000	-90,000	
						災害調査研究基金	2,200,000	2,200,000	0	
						退職金積立金	360,000	420,000	60,000	
	計	0	0	0						
運用財産	現金	167,046	191,162	24,116	金					
	預金	392,111	699,993	307,882						
	普通預金	392,111	699,993	307,882						
	未収金	76,000	0	-76,000						
	仮払金	1,222,762	745,502	-477,260						
	計	1,857,919	1,636,657	-221,262		計	9,960,000	9,530,000	-430,000	
引当財産	支部基金引当預金	3,510,000	3,110,000	-400,000	負債	未払金	0	0	0	
	定期預金	3,510,000	3,110,000	-400,000			仮受金	591,140	607,460	16,320
	学術振興基金引当預金	3,890,000	3,800,000	-90,000						
	定期預金	3,890,000	3,800,000	-90,000						
	災害調査基金引当預金	2,200,000	2,200,000	0						
	定期預金	2,200,000	2,200,000	0		計	591,140	607,460	16,320	
	職員退職引当預金	360,000	420,000	60,000	繰越金	前期繰越金	0	0	0	
	定期預金	360,000	420,000	60,000			当期過不足金	1,266,779	1,029,197	-237,582
	計	9,960,000	9,530,000	-430,000			計	1,266,779	1,029,197	-237,582
	合計	11,817,919	11,166,657	-651,262		合計	11,817,919	11,166,657	-651,262	

2007 年度 収支決算書

日本建築学会北海道支部

収入の部				支出の部					
摘要	予算額	決算額	増減	摘要	予算額	決算額	増減		
交付金	支部費	1,428,000	1,516,000	88,000	事業費	調査研究事業費	730,000	663,800	-66,200
	経営助成費	2,370,000	2,220,000	-150,000		表彰関係費	730,000	784,681	54,681
	事業交付金	1,030,000	1,038,000	8,000		設計競技費	40,000	10,402	-29,598
	支部事務所費	1,858,000	1,858,000	0		卒業設計展示費	40,000	24,008	-15,992
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	340,000	275,800	-64,200
						ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾞﾑ等経費	2,500,000	2,585,194	85,194
計	6,986,000	6,932,000	-54,000	委託調査研究費	0	473,025	473,025		
副次収入	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾞﾑ等収入	2,500,000	2,402,464	-97,536	特別事業費	特別企画事業費	290,000	90,000	-200,000
	調査研究受託収入	0	556,500	556,500		計	290,000	90,000	-200,000
	雑収入	555,000	541,988	-13,012	会議費	总会費	210,000	175,700	-34,300
	収入利息	5,000	19,802	14,802		役員会費	90,000	78,560	-11,440
	計	3,060,000	3,520,754	460,754		運営費	10,000	12,000	2,000
	前期繰越金	1,266,779	1,266,779	0	計	310,000	266,260	-43,740	
基金取崩金	690,000	490,000	-200,000	事務費	人件費	2,110,000	2,241,760	131,760	
					通信費	260,000	194,672	-65,328	
					消耗品費	90,000	96,172	6,172	
					印刷費	40,000	85,722	45,722	
					雑費	910,000	855,850	-54,150	
				事務所費	2,653,000	2,532,990	-120,010		
				計	6,063,000	6,007,166	-55,834		
				基金積立金	0	0	0		
				予備金	959,779	0	-959,779		
小計	12,002,779	12,209,533	206,754	小計	12,002,779	11,180,336	-822,443		
資産収入				資産支出					
合計	12,002,779	12,209,533	206,754	合計	12,002,779	11,180,336	-822,443		
収支差額						1,029,197	69,418		

監査報告

2007 年度における社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2008 年 5 月 8 日

支部監事 _____

支部監事 _____

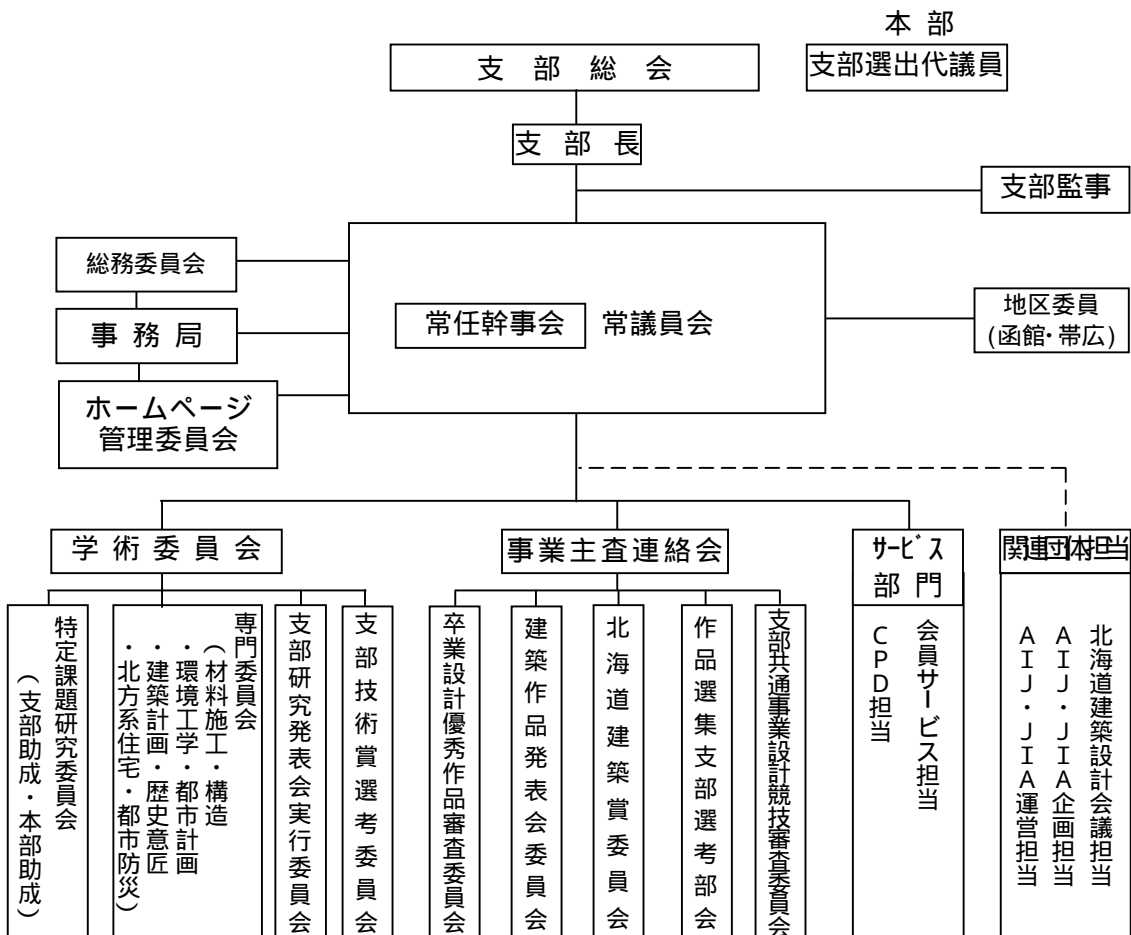
2008 年度事業計画方針案

1. 活動方針

近年、本学会の個人会員、法人・賛助会員の減少傾向が進んでいる。この傾向は他学会も同様で、少子高齢化の波が確実に及んできていることの現われに違いない。北海道支部は、他支部に比べその減少傾向が緩いといっても、支部会員の減少は確実に運営交付金の減額につながり、支部活動の経済的な基盤を揺るがしている。耐震偽装は大きな社会問題へと発展し、基準法や土法の改正に繋がったばかりでなく、確認申請の複雑化による建築着工件数の減は、国内経済の後退にまで及んでいる。このようなアゲインストの風の中で、建築界の健全な展開を担う業界・学協会のさきがけとして本学会の果たすべき役割は、一層重要になってきている。

今年度は、財政強化の面では、支部委託研究の受託件数の増を図る。体制の見直しでは、本部助成の研究申請や特定課題研究の充実を図るべく、学術委員会の活性化を計画する。支部活動の活性化では、建築教育の一環として、建築環境部門以外にも、建築学生を巻き込んだ卒業論文発表会活動や設計競技の機会を立ち上げ、支部活動参加回数増大を図る。

2. 2008 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2008.6.1~2010.5.31)

星野 政幸君 北海道工業大学教授

新任常議員(2008.6.1~2010.5.31)

岩田 徳夫君 岩田地崎建設(株)常務執行役員
小椋 伸幸君 大成建設(株)札幌支店建築部作業所長
小澤 丈夫君 北海道大学大学院工学研究科准教授
加藤 誠君 (株)アトリエブク常務取締役
川村 敏彦君 (株)ドーコン建築都市部主幹
佐伯 健一君 北海道立札幌工業高等学校教諭
濱 幸雄君 室蘭工業大学建設システム工学科准教授
(印 常任幹事)

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2008年4月14日)により決定した。
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(印 委員長)

伊東 敏幸君 大澤 一彦君 菊地 優君 長谷川拓哉君 森 傑君

留任常議員(2007.6.1~2009.5.31)

伊東 敏幸君 北海道工業大学教授
大澤 一彦君 清水建設(株)北海道支店開発営業部部长
菅原 秀見君 (株)北海道日建設計設計室設計主管
田川 正毅君 東海大学芸術工学部教授
長谷川拓哉君 北海道大学大学院工学研究科准教授
福島 明君 北海道立北方建築総合研究所居住科学部長
中渡 憲彦君 北海道職業能力開発大学校准教授
(印 常任幹事)

新任代議員(2008.4.1~2010.3.31)

串山 繁君 北海学園大学教授
緑川 光正君 北海道大学教授
向山 松秀君 石本建築事務所札幌支所所長
(2008年3月の本部選挙の結果、上記3名が選出された)

留任代議員(2007.4.1~2009.3.31)

飯田 雅史君 北海道工業大学教授
猪股 宣夫君 大成建設札幌支店副支店長
城 攻君 北海道大学名誉教授

新任支部監事(2008.6.1~2010.5.31)

武田 寛君 北海道工業大学教授
(2008年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事(2007.6.1~2009.5.31)

那須 豊治君 岩田地崎建設技術部部长

地区委員(2008.6.1~2009.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也君 函館市企画部次長(兼函館市新幹線誘致推進室長)

3. 支部運営の諸会合の開催

総会
期日 2008年5月16日(金)
会場 北海道建設会館

常議員会 (複数回)

常任幹事会 (複数回)

選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4.1 学術委員会 (主査:角 幸博君 委員数 16名、委員会開催予定数 4回)

活動方針

- ・ 学術委員会主査は、本部学術推進委員会の地域委員として年4回ほど本部委員会に出席し、本部委員会の情報を各専門委員会に報告する。
- ・ 当学術委員会は各専門委員会及び特定課題研究委員会から、調査研究の企画・計画・活動報告を受ける。
- ・ 支部研究発表実行委員会の企画の審議と承認。
- ・ 特定課題研究、支部助成研究、建築文化週間の募集と選定を行う。
- ・ 支部長諮問事項についての検討を行う。
- ・ 各専門委員会の活動の横断的な連絡をする。

活動計画

- 第1回目:本部学術推進委員会報告。各専門委員会及び特定課題研究委員会活動計画。支部研究発表実行委員会の予定。建築文化週間の実施計画。
- 第2回目:本部学術推進委員会報告。各専門委員会活動報告。支部研究発表会次年度開催校の決定及び募集要項その他の検討事項。建築学会本部大賞候補の募集
- 第3回目:本部学術推進委員会報告。各専門委員会活動報告。支部研究発表会募集要項の決定。次年度の建築文化週間及び特定課題研究の募集。
- 第4回目:本部学術推進委員会報告。次年度の建築文化週間及び特定課題研究の選考。支部研究発表会特別企画の決定。特定課題研究及び建築文化週間の結果報告。技術賞の審査を行う。

4.2 専門委員会

材料施工専門委員会 (主査:桂 修君 委員数 23名、委員会開催予定数 6回)
建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最近の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下の通りである。

- 1) 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- 2) 勉強会(話題提供)
- 3) 見学会の開催
- 4) 道内巡回講演会
- 5) 本部「寒中コンクリート小委員会」傘下の「寒中指針改定WG」と連動して、「寒中コンクリート施工指針・同解説」の執筆作業を行う。

構造専門委員会（主査：桜井 修次君 委員数 20 名 + アドバイザー - 1 名 委員会開催予定数 2 回）
これまでに引き続き、委員会を通して道内における構造関係の研究者・技術者との情報交換を行うと共に、各種行事を企画して地域の会員・市民への啓蒙活動を行う。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 委員会の開催：2 回行う（6 月，12 月）
必要に応じて通信会議を開く。
- 2) 講演会・講習会：JSCA 北海道支部および他の建築関連諸団体と協力して実施する。
- 3) 施工現場見学会：道内で現在施工中の建築構造物の見学会を行う。
- 4) 工業高校巡回講演会：北野敦則君（北大）が行う。題目は「耐震設計と構造デザイン」。
- 5) 支部研特別企画：学会長の基調講演（記念講演）を構造専門委員会が担当する。
チーフとして武田 寛君（道工大）を選出した。
- 6) 勉強会：委員会開催時に、幅広い分野を対象に適宜勉強会を行う。

環境工学専門委員会（主査：羽山 広文君 委員数 31 名 委員会開催予定数 5 回）
本委員会は 31 名の委員で構成され、2008 年度は 5 回の委員会開催を予定している。学会活動に関する諸協議の他、以下の活動を計画している。

- 1) 高齢化社会に対応する生活環境整備の課題検討及び取り組み事例の収集：計画委員会との合同企画として提案された「超高齢化社会の積雪寒冷住環境整備の課題」について、札幌市立大看護学部の協力のもと、勉強会や意見交換会による課題整理を進めながら、シンポジウム開催に向けた企画の具体化を計る。
- 2) 06 年度に特色ある支部活動として取り組んだ農業生産環境の改善について、事例収集と普及活動を継続する。
- 3) （社）北海道建築技術協会主催の、「中高層マンションの外断熱改修委員会」と「断熱建物の夏対応委員会」への活動協力を継続する。

この他、道内学生による環境系卒業研究発表会への支援や環境関連の講演・シンポジウムへの後援・協賛等を予定している。

委員会の開催時期は、2008 年 4 月、6 月、9 月、12 月、2009 年 3 月を予定している。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 15 名、委員会開催予定数 4~5 回）

（活動方針）昨年度に引き続き「超高齢化社会の積雪寒冷地における居住環境整備の課題」を 2008 年度の活動テーマに研究協議を図る。「安全・安心」で「快適」を標榜する立場から、居住施設とその周辺の住環境に連続する行動空間が確保するための計画的方法を考究していく。

（主な活動事業）上記課題に対し、2 回~3 回程度勉強会を予定している。なお、課題に関する研究情報を集約するための Web アプリケーションをダイナミック DNS サービス下にサーバを立てて利用できるようにする。4~5 月中にサーバの環境を整えてサービスを開始予定。

都市計画専門委員会（主査：小林 英嗣君 委員数 15 名、委員会開催予定数 4~6 回）
都市計画委員会では主査を小林英嗣先生に交代し、次世代プランナー育成（若手プランナーのみならず、都市計画・まちづくり分野を目指す学生・大学院生）と交流、地域における都市計画・まちづくり・景観マネジメントの担い手の育成・発掘支援を行う。

現在、北海道内各自治体では、人口減少や少子高齢化にともなう社会経済現象の変化、地方分権などの仕組みの問題により、都市計画行政およびまちづくり活動を取り巻く状況が大きく変わり、中心市街地や都市地域の再生・再編上の課題は大きい。また景観法制定以降の景観まちづくりや環境まちづくりの仕組みや方向性も強く求められている。

そこで、都市計画委員会が中心となり、自治体の都市計画行政や市民・NPO などによる地域再生（より具体的には、都市・地域まちづくり活動の支援と景観マネジメント施策支援など）を行い、同時に都市・農村の連携を含めた地域の担い手の育成・交流を行う。また、次世代型

地域まちづくりプランナー（若手、学生）サミット、地域まちづくりウォッチングやフォーラムの開催、環境まちづくりや景観まちづくりの支援・情報交換を行うキャラバンWSなどを実施する。

歴史意匠専門委員会（主査：水野 信太郎君 委員数 16名、委員会開催予定数 5回）

例年のように道内各地の歴史的建造物の現状を把握しながら、保存・活用に関する意見を各委員間で共有し、必要に応じて学会として社会に発言する体制を用意する。一方では2004年度から文化庁と北海道教育委員会に協力して実施した調査が終了した。それを発展させる形で「北海道の近代和風建築における建築意匠の展開過程と地域的特徴」として特定課題研究を継続する。時として必要に応じて、歴史的建造物の保存に関する要望書を北海道支部長名で提出する作業に全力をあげて協力する。また市民への啓発活動として、建築文化週間である10月4日に「歴史的建造物から夕張の歴史と未来を考える」と題する一般市民向けの建築見学会を実施する。

別に委員会内部の活性化を図る目的から、委員相互の研究交流や情報交換を毎回の専門委員会の中で実施する。その結果、準備が整えば一般参加も可能な公開委員会の形に広げていくことも検討する。

北方系住宅専門委員会（主査：鈴木 大隆君 委員数 20名、委員会開催予定数 4回）

環境や高齢化問題を背景とした持続循環型社会における今後の住まいづくりには、これまでの技術の集積からなる住宅づくりや居住者の一面的視点に立ったものづくりとは異なる新たなコンセプトの構築が必要である。

例えば、省エネの分野においては、2008年7月には洞爺サミットにおいて性急な対策が求められているが、「政治マターの環境問題」からは、新たな住まいづくりの方向は期待できない。

北方系住宅専門委員会では、

- ・ 住宅分野で研究活動を精力的に進めている研究者
- ・ 地域をベースに活動している建築家
- ・ 積雪寒冷地に適する住宅を追求している生産者
- ・ 地域をベースに事業展開している建材メーカー

などを核としながら委員会体制の再構築を進め、年4回の委員会活動により昨年度に引き続き地域・ひとネットと新たな住宅ビジョンの構築に向けた検討と年2回のシンポジウム等による社会活動を行う。

都市防災専門委員会（主査：南 慎一君 委員数 20名、委員会開催予定数 2回）

通信委員会複数回、WG複数回）

本委員会の基本方針は、多領域、多地域に渡る防災関係機関（関係者）の連携を図ることにある。このため、委員会HPの運営及び防災ニュースの発行並びに災害委員会HPへの協力等を行い、支部会員及び本部災害委員会との連携関係の構築を図る。自然災害調査では、関係機関と連携した迅速かつ効率的な調査体制の確立を目指す。他学協会との連携では、強震動評価、風災害に関する調査研究会開催を目指す。地域住民・自治体との連携では、建築文化週間事業における耐震改修促進をテーマにした事業を企画開催し、地域の防災力の向上を支援する。

4.3 特定課題研究委員会

今年度なし

4.4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2007度より)

寒冷地工事仕様調査研究委員会（主査：長谷川拓哉君 委員数：21名委員会開催予定数5回）

2008年度は、2007年度の成果をふまえ、以下の検討を行う予定としている。

- 1) 実務者へのアンケート・ヒアリング調査：2007年度調査結果をふまえ、問題の起こりやすい寒冷地における工事仕様について、アンケート調査及び必要に応じてヒアリング調査を行う。
- 2) 現行 JASS の寒冷地対応状況に対する調査：現行 JASS の本文及び解説について、寒冷地に対する注意喚起、寒冷地対応の工事仕様の有無、寒冷地に関する解説などの対応状況の調査を行う。
- 3) JASS の寒冷地工事仕様に関する改善案の提案：上記 1) 2) をふまえ、現行 JASS の本文及び解説について、特に寒冷地で問題が起こりやすい点を中心に、寒冷地対応の工事仕様に関する記述の改善案を検討し、その提案を行う。

5. 支部研究発表会

5.1 支部研究発表会実行委員会（主査：羽山 広文君 実行委員会委員 16 名、委員会開催予定回数：5 回）

支部研究発表会を企画・運営することを責務として支部研究発表会実行委員会が設置されており、この委員会の主な活動内容を以下に示す。

- 1) 支部研究発表会日程と会場の決定
- 2) 支部発表会の論文原稿種別、発表形式の確認の決定
- 3) 論文執筆要領の作成と原稿募集記事の建築雑誌掲載および原稿募集事業の実施
- 4) 特別企画のテーマ募集事業の実施および特別企画テーマの選定
- 5) 論文原稿の受付・編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成および建築雑誌掲載記事の手配
- 6) 支部研究発表会事業の実施

5.2 支部研究発表会の実施

2008 年度の研究発表会は以下のように予定されている。

論文締切り：4 月 15 日（火）17：00（電子投稿受付）

開催日時：6 月 28 日（土）

場所：北海道工業大学（札幌市）

6. 表彰

6.1 北海道建築賞

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の 3 つの視点から視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰を行い、より一層の建築創作活動の促進を図る。

（2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第 33 回北海道建築賞の応募期間：2008 年 4 月 15 日（火）～5 月 15 日（木）
- 2) 審査期間：5 月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6 月上旬（書類審査）～7・8 月（現地審査）～9 月上旬（最終選考）
- 3) 結果発表：9 月下旬（常議員会での承認後）

4) 北海道建築賞授賞式および受賞記念講演会：10月31日（金）予定

6.2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

（2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2008年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2007年度と同様、2008年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に、各部門、金、銀、銅、各賞を選出する。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6.3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6.4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6.5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に係って、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7.1 北海道建築作品発表会委員会（主査：佐藤 孝君 委員3名 実行委員10名 委員会開催数6回（実行委員会2回を含む））

2008年度の目標も引き続き、事業収支の改善である。発表登録費の見直し、作品集コストの検討などを図り、可能性を検討し、実施できる部分より着手することである。建築作品発表会は、北海道支部の特色ある事業という認識に立ち、北海道の建築の質の向上に寄与することが重大な使命であり、建築作品を発表することによる情報発信とそこで行われる議論の蓄積と充実は、他の建築系諸団体にとっても最良のCPDのコンテンツ供給であると認識して、その質を高めることを今年も目指していきたい。

7.2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品の応募時期：8月下旬～9月下旬
作品集原稿締め切り：10月中旬
作品発表会開催時期：12月初旬の中の1日間
作品発表会開催場所：道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、事業主査連絡会担当常議員 予定開催数：複数回）

事業系5委員会の事業進捗状況とその際の問題点等を適宜把握し、意思決定機関である常議員会へ改善提案等を行って行くための役割を今後も果たして行くような活動を行って行く。さらには、各事業が連携しつつ活性化が計れる可能性を検討する。

8.2 総務委員会（委員長：菊地 優君 委員数4名 予定開催数1回）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況がさらに悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに、事務局業務の効率化、会議室の有効利用についても適宜検討を継続的に行う。さらに、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会(2008年度)(予定)

委員長	菊地 優君	北海道大学	(教育機関の常議員経験者)
委員	那須 豊治君	岩田地崎建設	(民間機関の常議員経験者)
"	福島 明君	北海道	(行政機関の常議員経験者)
"	伊東 敏幸君	北海道工業大学	(留任常議員)
"	未定		(新任常議員)

8.3 ホームページ管理委員会（主査：谷口 尚弘君 委員数：5名）

当委員会は当支部ホームページの管理を活動の目的としている。5名の委員で構成され、委員会の定例開催は特に設定していないが、掲載内容等について適宜通信により協議することとしている。2008年度は、前年度に引き続き既掲載内容や行事案内等を迅速に更新・掲載し、時宜を得た会員への情報提供を行うとともに、会員外に対しても広く日本建築学会および当支部の活動を宣伝するため、各種委員会の活動状況、行事の案内および活動報告などを適切に掲載し、当ホームページの更なる充実を図る。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9.1 本部主催講習会

2008年度本部主催支部共通事業講習会を開催する。

9.2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9.3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9.4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10.1 2008年度支部共通事業設計競技の実施（主査：川人 洋志君 委員数5名 委員会開催予定数1回）

2008年度設計競技審査委員会の委員には、主査川人洋志、委員、赤坂真一郎、小西彦仁、那須聖、山内裕一の5名で行う予定である。

2008年度の課題は「記憶の器」と決定され、7月中に支部審査を1回、行う予定である。なお、昨年以上の応募数確保のため、各大学関係者に参加の呼びかけを適切な時期に行いたいと考えている。

10.2 作品選集支部選考部会（主査：米田 浩志君 委員数9名 委員会開催予定数2回及び現地審査）

昨年度は、北海道支部の応募総数は11作品であった。本部作品選集委員会において全国応募作品総数から割り出された支部推薦枠は6作品である。本審査の結果、北海道支部の推薦6作品が全て作品選集掲載作品に決定した。推薦作品が全て掲載作品に選出されている状況はここ数年続いている。ここから読み取れるのは、北海道の建築作品の質の高さではないだろうか。このような結果を残していくためにも、質の高い、より多くの建築作品が応募する環境作りを新年度の支部委員会で検討したい。

10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「津波防災まちづくり体験学習」（都市防災専門委員会）
2. 「歴史的建造物から夕張の歴史と未来を考える」（歴史意匠専門委員会）
3. 「第33回北海道建築賞授賞式・授賞記念講演会」（支部主催）

1 1 . 建築関連団体との活動

1 1 . 1 AIJ-JIA 合同委員会 (委員数(AIJ) : 常任 6 名、委員会開催予定数 3 回)

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、合同で行う企画について協議する。ジョイントセミナーについても継続して行うように計画を進める。また、北海道建築設計会議と連携して、関連団体を含めた企画等の活動を積極的に行う。

1 1 . 2 北海道建築設計会議

10 団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

1 2 . 北海道支部創立 60 周年記念事業

2008 年度は北海道支部設立 60 周年となる年度なので、60 周年を記念した事業として次のことを計画する。なお、支部の周年記念事業としては 75 周年を大規模に開催する予定になっていることから、60 周年に関しては例年開催している事業を 60 周年記念として開催する程度に留めることを基本とする。

1) 特別講演会「空間と構造 - 私にとっての構造デザイン」

- ・ 支部研究発表会の特別企画として行う齋藤会長の講演を 60 周年記念として開催
- ・ 日時 : 2008 年 6 月 28 日 15:00 から 90 分程度
- ・ 会場 : 北海道工業大学 G 棟
- ・ 講演を記録した小冊子 (Web 版も予定) を作成

2) 建築文化週間の各行事

- ・ 建築文化週間に開催される各行事を 60 周年記念として開催

3) 支部設立後 51 ~ 60 年の支部活動に記録文書作成

- ・ 50 周年後 10 年間における支部活動を前例に倣って文書化

4) シンポジウム「(仮題) 小樽運河と石造倉庫群の保存運動は小樽の町と我が国のまちづくりに何を遺したか」

- ・ 峰山氏の日本建築学会文化賞受賞を記念したシンポジウムを開催する

2008 年度収支予算案

日本建築学会北海道支部

収入の部					支出の部				
項 目	予算額	昨年度	増減		項 目	予算額	昨年度	増減	
交付金	計	6,783,000	6,986,000	-203,000	事業費	計	4,130,000	4,380,000	-250,000
	支部費	1,395,000	1,428,000	-33,000		調査研究事業費	640,000	730,000	-90,000
	経営助成費	2,190,000	2,370,000	-180,000		表彰関係費	730,000	730,000	0
	事業交付金	1,040,000	1,030,000	10,000		設計競技費	30,000	40,000	-10,000
	支部事務所費	1,858,000	1,858,000	0		卒業設計展示費	30,000	40,000	-10,000
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	300,000	340,000	-40,000
副次収入	計	2,960,000	3,060,000	-100,000	特別事業費	計	290,000	290,000	0
	シホシム等収入	2,400,000	2,500,000	-100,000		特別企画事業費	290,000	290,000	0
	調査研究受託収入	0	0	0	会議費	計	290,000	310,000	-20,000
	雑収入	550,000	555,000	-5,000		総会費	200,000	210,000	-10,000
	収入利息	10,000	5,000	5,000		役員会費	80,000	90,000	-10,000
						運営費	10,000	10,000	0
繰入金	計	1,319,197	1,956,779	-637,582	事務費	計	5,563,000	6,063,000	-500,000
	前期繰越金	1,029,197	1,266,779	-237,582		人件費	2,110,000	2,110,000	0
	基金取崩金	290,000	690,000	-400,000		通信費	200,000	260,000	-60,000
						消耗品費	90,000	90,000	0
						印刷費	60,000	40,000	20,000
						雑費	450,000	910,000	-460,000
					事務所費	2,653,000	2,653,000	0	
				予備金	計	789,197	959,779	-170,582	
					基金積立金	0	0	0	
				予備金	789,197	959,779	-170,582		
合 計	11,062,197	12,002,779	-940,582	合 計	11,062,197	12,002,779	-940,582		

基金・積立金内訳

2007年度末(決算)		2008年度末(予算)	
支部基金	3,110,000	支部基金	3,110,000
災害調査研究基金	2,200,000	災害調査研究基金	2,200,000
学術振興基金	3,800,000	学術振興基金	3,510,000
職員退職積立金	420,000	職員退職積立金	480,000

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿
法人正会員

2008年3月末現在

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00502-83	1	荒井建設(株)	00547-58	1	戸田建設(株)
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00553-56	1	(株)巴コ-ポレ-ション
00505-34	2	岩倉建設(株)	00557-04	1	日鐵セメント(株)
00505-50	2	岩田地崎建設(株)	00614-45	1	日本デ-タサ-ビス(株)
00512-89	3	(株)大林組	00555-50	1	西松建設(株)
00512-97	1	(株)大林組	00560-51	1	(株)日本設計
00515-72	1	(株)岡田設計	00561-82	1	日本防水総業
00617-89	1	(株)画工房	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00567-92	2	北電興業(株)	00625-81	1	(株)アトリエ・アク
00517-00	5	鹿島建設(株)	00586-89	1	北農設計センター-
00611-61	1	曾澤高圧コンクリ-ト(株) 技術部	00597-74	1	(株)総研設計
00614-38	1	(株)ホ-ム企画センタ- 総務部	00565-64	1	(株)フジタ
00523-82	2	(株)熊谷組	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
00530-03	1	(株)札幌日総建	00568-07	1	(株)ドーコン
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00618-60	1	北海道建築設計監理 (株)
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)	00568-15	2	北海道コンクリ-ト 工業
00540-41	5	大成建設(株)	00531-84	1	清水建設(株)
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00538-83	2	(株)田中組
00544-49	2	(株)竹中工務店	00674-50	1	(株)中原建築設計 事務所
00674-76	1	(株)間組 札幌支店建築部	00684-14	1	(株)三暁プレコン システム
00656-02	1	坂本建設(株)	00685-29	1	不二サッシ(株)北海道 支店
00645-91	1	豊平製鋼(株)	00704-45	1	(株)アトリエ・ブンク
00659-11	1	(株)都市設計研究所	00704-09	2	(財)北海道建築指導 センター
00662-76	1	(株)松原組一級建築士 事務所	00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)
00674-84	1	五洋建設(株) 札幌支店	00721-70	1	(株)土屋ホーム
00549-52	1	東急建設(株) 札幌支店			
00701-51	1	(株)INA 新建築研究所 札幌支店			
00710-77	1	(株)久米設計札幌支社			
00684-22	1	(株)北海道サンキット			

賛助会員

会員番号	口数	会員社名・団体名
00814-70	3	北海道電力(株)
00810-06	1	道都大学附属図書情報館
00813-49	1	(株)NTT ファシリティ -ズ北海道支店 営業推進部
00815-01	1	北海学園大学附属 図書館
00815-19	1	札幌建築デザイン専門学校
00847-03	1	(株)総合資格



社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>